

平成27年 1月 8日



## シジュウカラガンの飛来数が1,000羽を超えました

八木山動物公園では、日本雁を保護する会及びロシア科学アカデミーカムチャッカ太平洋地理学研究所と共同で、絶滅の危機にひんしているシジュウカラガンの渡りを復活させる事業に取り組んでいます。

一つの個体群を維持するのに最低限必要な数と言われている1,000羽を超えたシジュウカラガンが、昨年12月宮城県大崎市にある化女沼などに飛来し、群れの中には、10年連続飛来した個体も確認されました。

- 1 飛来数 1070羽
- 2 飛来場所 化女沼及び宮城県遠田郡美里町
- 3 飛来確認日 12月22日(月)
- 4 飛来確認者 池内俊雄(雁の里親友の会会長)
- 5 標識個体

群れの中に、プラスチックカラー足環(番号付)を装着した「標識個体」を確認しました。

標識番号「左足赤色50」(10年連続飛来)  
宮城県美里町で確認(写真左から2番目個体)



宮城県美里町北浦にて(12月6日)  
撮影者 瓜生 篤氏(日本雁を保護する会)

### 6 シジュウカラガンの渡り復活事業について

昭和55年から取り組んでいる絶滅の危機にひんしているシジュウカラガンの数を回復し、渡り鳥として再びよみがえらせる事業。放鳥は、平成7年から平成18年まで日ロ合同により北部千島列島のエカルマ島で実施。平成19年と平成22年はロシア単独で放鳥。今まで合計13回、総放鳥数551羽の実績があります。

その後の調査で、国内に連続飛来している放鳥個体が、渡りを完全に学習し、エカルマ島において順調に繁殖を続けていることが判明し、近年は飛来数が増加しています。

また、越冬地は宮城県の蕪栗沼・化女沼周辺、秋田県の小友沼(能代市)・八郎潟と新潟県の福島潟で、宮城県のねぐらは蕪栗沼や化女沼であることが判明しています。

◎国内への飛来数(カッコ内は宮城県への飛来数)

平成25年度	677羽(576羽)	平成24年度	408羽(278羽)
平成23年度	238羽(145羽)	平成22年度	105羽(67羽)
平成21年度	89羽(58羽)	平成20年度	59羽(49羽)